

曙 光

日の出を撮りに行く。海岸に近づく頃、夜が除々に明け始める。目的地に着き、急ぎカメラのセッティング。暗い空が藍から紫、そして赤から黄へと微妙に変化してゆく。水平線には漁船の灯りがまたたき、海もまだ暗い深さをたたえながら、波のうねりが空の変化を映している。海鳥が時おり影絵のようにレンズをよぎって飛ぶ。寒風に体の芯まで冷えきってゆく。

やがて、黄色い半円の中心部近く、水平線の先にわずかに横たわる雲の端が金色の線でふちどられ、みるまにその一点が輝きを増し、今年初めての陽光が一せいにレンズに飛びこんでくる。夢中でシャッターを押し続ける……。いつの間にか太陽は全体を現し、ファインダーから目を離すと、友の姿が、周囲のもの全てが金色の光に包まれていた。

1月のおもな行事

- 5日 御用始め
- 8～9日 } 昭和55年度地方統計職員業務研修・基礎研修(水戸市)
- 13～14日 }
- 13～14日 法人企業投資動向調査関東甲信静ブロック会議(千葉県)
- 20日 国勢調査事後調査市町村分取集日
- 20～21日 消費者物価指数基準時改正に伴う特別講習会(東京都)
- 26日 小売物価統計調査員事務打合せ会(水戸市)
- 28～29日 国勢調査報告会(水戸市, 土浦市)

年頭のごあいさつ



茨城県知事
茨城県統計協会総裁

竹内 藤 男

あけましておめでとうございます。

私は、「対話と参加による県政」を掲げて知事に就任してから、早くも6度目の正月を迎えました。

この間、広く県民の皆様のご意見を伺いながら、茨城を真に豊かで住みよい郷土とするよう精一杯の努力を続けて参りました。幸い、皆様方の深いご理解と多大のご協力を得まして、県勢も着実な発展を遂げ、県民福祉も向上をみております。ここに、改めて心から感謝申し上げる次第でございます。

さて、昭和56年という新しい年を迎えた訳ですが、本県をめぐる社会経済情勢をみますと、依然として経済の低成長基調が続くとともに、人々の価値観も「こころの豊かさ」を大切にす傾向が強まるものと予想されます。

このため、私は、昨年7月末、「調和のとれた活力ある地域社会づくり」、「世界に開かれた茨城づくり」を目標とした「第二次県民福祉基本計画」を新たに策定いたしました。今年は、この計画の実質的な初年次となりますので、厳しい財政事情の中ではございますが、限られた財源をより効率的に運用して、豊かな地域社会づくりをすすめて参りたいと考えております。

しかしながら、茨城の本当の発展を期すためには、これに加えて、長期的な展望に立った発展の土台づくりが必要でございます。このような視点から、射爆撃場跡地利用、県西・県南の広域用水事業、北関東横断自動車道などの大きなプロジェクトを早期に実現し、首都東京に近接して豊かな自然を有するなど、将来大きく発展する可能性を持っている本県の発展基盤を整備して参りたいと存じます。

また、昭和60年に筑波研究学園都市で開催を予定しております国際科学技術博覧会につきましては、本県の一層の発展のために重要な梃子になるものと考えておりますが、昨年末、ようやく博覧会国際事務局総会において、テーマ、開催期日が承認されるとともに、会場予定地の決定をみる事ができましたので、その準備をさらに積極的に進めて参ります。

今年も、皆様方のご意見、ご要望にそって、県政をすすめて参る所存でございますので、県民の皆様におかれましても、県勢発展のためにより一層のご支援とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

おわりに、皆様のますますのご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。

昭和56年 元旦

よみがえれ統計

企画部統計課長

鷺 見 丈

常勝ジャイアンツが低迷をはじめたのは、V9ナインのロートル化と両巨砲ONの片肺飛行の痛手による戦力低下が大きな原因であったと思う。

この勝てないジャイアンツに「よみがえれジャイアンツ」の合唱は、多くの野球ファンが期待や一種の快感をもって見守ってきた。けれども、とうとうかつての強さはもどらなかったし、並のチームに定着してしまった。

そのジャイアンツにも、昨シーズンは若手の台頭がみられ、ようやく明るさがみえはじめてきたといえる。だが、シーズンオフには再びONショックに見舞われ、不透明感を倍加して新年を迎えた。

最近のプロ野球は、外人助人の直接加入がなければ互角の戦いはできない。しかし、米大リーグという目標があって技術のみがき、進歩し、その戦術はかなり高度になったといわれる。

近代野球は、広島カープにみられるような管理野球が主流である。これはち密なデータに裏うちされた陰の力に負うところが大きく、スコアラーや情報収集部門が十分機能していることが必須の条件である。選手は野球を熟知し、相まって監督の判断や采配は十分な効果を発揮しうと思う。

世界中を震かんとさせた昭和48年末の石油ショックは、わが国経済の高度成長をささえてきたエネルギー源の高騰と不安感から一転して低迷と混乱の極に至り、痛烈なパンチをうけた。日本の津々浦々にTV電波は普及し、全国的に物価パニックに陥り、49年の消費者物価は対前年比24.4%増という狂乱物価を招いた。

それまで40年代のわが国経済は、驚異的な高度成長を遂げ、ジャイアンツのV9とともに快進撃を続けていたが、同じように前後して低迷期に入り、長いトンネルに入った。

その後、官・民あげての必死の努力により、ようやく安定成長という路線に国民的感覚としてもなじみ、定着し、多くの難問をかかえながらも高技術、高付加価値産業等を中心として力強さがみえはじめたといえる。

しかしこの間、国の財政はその3割強を国債に依存するという不健全体質に陥り、国民に大きなツケを負わせる結果となった。今や財政再建が最大の政治課題であり、新年度は財政再建を至上命題としてスタートした。

加えて、内外の厳しい諸情勢のもとで、確かな地道な政策遂行といささかの間違いも許されない選択と判断が要求されている。激動の80年代は先行き不透明といわれ、わが国はもはや欧米先進国への追従は終り、これから未踏の新しい展望が求められているとされる。

このような情勢のもとでは、より多くの正確な情報が不可欠であり、また、これを十二分に活用することが何より重要である。地道な努力で集められた多くの統計データは、統計調査を通じて県民の正しい声を反映しているものである。大きく、速いテンポで変化する最近の社会情勢下では、何を選択し、計画し、実行するにも、その判断材料として公正な統計情報を駆使する訓練と習慣が必要である。

野球でも、長丁場では、着実に得点圏へ走者を出すような手堅さとそれができそうな不断の基礎づくりが肝要である。現在のような失策の許されない厳しい状況下では、統計によみがえってもらいたいし、県や市町村の行政各部門にその活用を促し、そのためには提供する統計部門担当者の一層の奮起と自覚を望むものである。

統計関係者が一堂に会しました。

大会長・森田優三全統連会長のあいさつで幕を開けた大会は、竹内藤男茨城県知事、和田祐之助水戸市長の歓迎のことばが続き、統計功労者の表彰にうつりました。

統計界最高の荣誉である大内賞を始めとして、各省庁大臣表彰、全国統計協会連合会長表彰、統計グラフ全国コンクール入選者表彰の全国大会受賞者、及び同時に行われた知事表彰、県統計協会総裁表彰、県統計グラフコンクール入選者表彰の県大会受賞者に対し、会場を埋めた参加者から惜しみない拍手が送られました。

続いての議事では、武子寿郎水戸市助役の議長により、議題「統計調査環境改善策の積極的推進について」の提案説明、議題についての意見発表があり、昨年大会における決議・要望についての経過報告の後、議題審議委員に付託された審議結果が決議として採決され、さらに大会宣言が満場の拍手で採択されました。

大会を記念しての、金森久雄日本経済研究センター理事長による「日本の経済力の源泉」と題しての講演は、統計関係者に深い感銘と強い決意を与えました。

最後に、郷土芸能「田宮囃子」が参加者の労を慰め、大会は成功裏にその幕を閉じました。

《あいさつ》

大会長
森田優三全国統計
協会連合会長



大会名誉会長代
竹内精一副知事

大会名誉副会長代
武子寿郎水戸市助役



司会
驚見丈県統計課長

《大会前日》



12月1日 水戸駅には大会参加者が
続々到着

レセプションでは 受賞者を祝福し
大会の成功を期し乾杯





大会宣言を朗読する三井県企画部長

《議事》



議題を提案説明する宇佐美栃木県統計課長

《記念講演》



「日本の経済力の源泉」と題して 金森久雄(財)日本経済研究センター理事長



意見発表する富山県高岡統計調査員



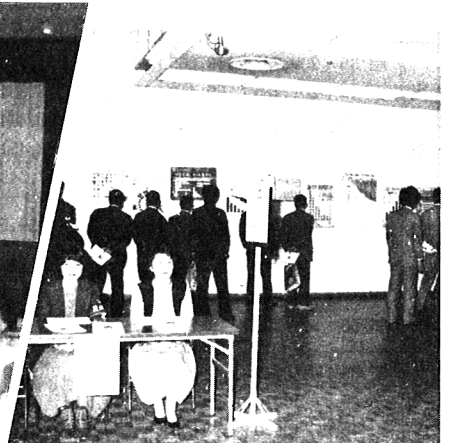
議題審議結果を報告する杉本神奈川県統計管理課長



アトラクションは 郷土芸能「田宮囃子」(新治村)



県大会会場ではモニターテレビで



全国・県統計グラフコンクール入選作品展示場